

# 厚岸町海事記念館通信

発行 厚岸町海事記念館

〒088-1151 厚岸町真栄3丁目4番地

TEL & FAX 0153-52-4040

<http://www.town.akkeshi.hokkaido.jp/kaiji>

No.35

2012年5月発行

## 海事記念館の絵はがき資料から～厚岸と桜～

桜は、寒くて長い冬の終わりを告げ、私たちに春の訪れを感じさせてくれます。5月18日～27日にかけては、厚岸恒例の「あつけし桜・牡蠣まつり」が子野日公園を会場に催され、さながら、春、本番といったところでしょうか。

さて、現在、桜の季節になると厚岸町内に桜を観賞できる場所がいくつかあります。今のように厚岸町が桜の名所となるには、上田勘兵衛氏という人物の存在を抜きには語れません。

上田勘兵衛氏は、明治・大正期にかけて小売業や水産業、さらには厚岸町会議員と多方面に渡って尽力した人物です。『古老が語るあつけし昔ものがたり』（厚岸町教育委員会編集）という本によると、大正期のはじめ、この上田氏やその雇い人らが中心となり、自費で厚岸の山々から桜の若木を持ってきて、国泰寺境内や厚岸神社、当時の厚岸町役場や上田氏が檀家総代を務めていた正行寺境内といった、今の桜通り周辺に植えたとのこと。また、現在厚岸町社会福祉センターのある場所には、当時、町立病院があり、その通りには桜と松が交互に植えられ、桜の咲く時期になると、桜のトンネルのようだったそうです。

厚岸の桜にとって、上田勘兵衛氏の功績は大きいと言えるでしょう。

ではここで、『厚岸町史』のなかに「桜の名所」という項目があるので、紹介したいと思います。

「明治四十年発行の釧路国便覧に、国泰寺について説明した文の中に、「境内地にある櫻樹は有名なるものにして、花季艶色愛すべく観覧の客、杖を曳くもの多し。」とあって、そのころから注目されていたことが知られる。しかし当時の厚岸町の桜は、国泰寺にわずかと、大泉という料亭<sup>(1)</sup>および上田勘兵衛の盆栽園<sup>(2)</sup>と称する庭園にあるだけであつた。(中略)上田勘兵衛は明治末期から約十か年にわたり、私財と労力を提供し、バラサン・アイカップ・床潭のサルカサンや、遠くは大黒島から桜を移植した。桜は潮風をきらうので移植の場所を選び、根の具合や土の調合に注意して、数百本を移植したという。ことに大黒島の断崖からおろす作業は大変な苦勞だったといわれる。」(『厚岸町史』下巻、厚岸町、1975年、746頁)

※下線(1)…正行寺(厚岸町梅香)境内への入口付近にあつた2階建ての料理屋。大正5年頃に焼失したとされる。

※下線(2)…上田勘兵衛氏が植木を植えていた場所のこと。



この絵はがき(年代不明:大正期か)は、左は「国泰寺最勝門(中門)」、右は「鳳雲閣三階花海」と記されています。鳳雲閣(「陵雲閣」という説も)とは、国泰寺十三世橋梧堂住職の時に老桜樹のそばに建てられた、3階建ての建物のことで、上記左の絵はがきの右端にその姿を一部確認することができます。

# 大黒島海鳥観察会を開催します

今年も大黒島海鳥観察会を開催します。この機会に天然記念物に指定されている大黒島の自然を感じてみてはいかがでしょうか。

- 日 時 : 6月2日(土)(天候不順の場合は3日(日)に順延)
- 参加人数 : 12名(応募多数の場合は抽選)
- 申込期限 : 5月25日(金)
- 問い合わせ先 : 海事記念館52-4040



## 郷土館・太田屯田開拓記念館 開館のお知らせ

郷土館と太田屯田開拓記念館が4月17日(火)から開館しました。皆様のご来館をお待ちしております。

- 開館期間 4月17日(火)～11月15日(木)
- 開館時間 午前9時～午後4時
- 休館日 月曜日、祝祭日の翌日(月曜が祝祭日の時はその翌日)、11月16日～4月15日
- 入館料 個人100円、団体60円(25名以上)  
\*高校生以下無料
- 問合せ先 (郷土館)0153-52-3794  
(太田屯田開拓記念館)0153-52-3599



郷土館



太田屯田開拓記念館

### 【編集後記】

2年前まで海事記念館におりました、車塚です。縁あって、再び、海事記念館に戻ってまいりました。心機一転、よろしくお願いたします。

さて、海事記念館を離れ、2年。交流職員として山形県村山市に1年、役場産業振興課に1年と、この2年間で多くのことを勉強させていただきました。その間、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を山形県村山市で経験しました。この震災では東北地方を中心に多くの方々が被災し、尊い命が奪われました。私の母方の実家も津波で家を失いました。津波はものを壊すだけでなく、命を、そして、思い出までも奪い去ろうとします。被災され、今なお復興にご尽力なさっている東北の方々、さらには故郷を離れ避難生活を強いられているの方々におかれましては、震災前のあの日常が一日も早く取り戻せることを心からご祈念申し上げます。

私自身、この2年間で決して無駄にしないよう、日々努力する次第です。

(文責 車塚)